

「4つの信」

1. 「儲けの基本」

右掲は、漢字を題材にしたネタをご紹介します。企業は、「儲ける」ことが使命づけられているのですが、「儲」=「信」+「者」と書くように一過性の利益を求めるのではなく、長いお付き合いを前提とした経営哲学が重要です。すなわち、人と人が信じあうことがポイントなのです。儲ければよいと言って一時的な商売に走り過ぎるとリピートが来ないので、すぐに、行き止まるのです。まずは「適切な利潤」で長くお付き合いするという基本スタイルが重要であるという共通認識が重要です。

「儲」=「信」+「者」
「絆」=「糸」+「半」
「心」=交わらないバラバラな漢字
「幸」=「辛」+「一」
「魂」=「云」+「鬼」
「忙」=「心」+「亡」

同じように、「社員」「仕入先」「社会」・・・という視点との信頼関係が重要になって来ます。私は、「お客様」を加えて4つの「信頼の絆」が重要だと話していますが、この「儲けの基本」が頭で理解できても実践の場では難しいようです。例えば、社員さんとのコミュニケーションですが、最近、物凄く希薄になっていて、極端な場合、隣に座っている人とすらメールでやり取りしているというケースもある位です。本当に、ウソみたいな話があるのです。そこまで極端でなくても、メールが横行しており、あたかもメールを読むのが当然とばかり、何のフォローもない一方通行的なものが多くなっています。

幾ら忙しい時代になったと言っても、コミュニケーションの手段がメールだけと言うのでは寂しいですね。私は、メールでも読んだら何らかのレスポンスを返すようにしていますが、相手の方からは、何のレスポンスも頂けないまま、突然、「あの件・・・」という話になる事も経験しています。OKなのかどうか分からない状態なのですが、余り重要でないと思う場合、こちらから電話したりするアクションを行わないで済みます場合もあるのです。そんな案件で、間際になって「あの件・・・」というのでは・・・と思ったりしています。

2. 「信頼の絆」

このような時代を物語るように精神的な病気が多くなっているようです。「忙」という漢字は、「心」+「亡」で心を亡くすという事を物語っているのです。これを見ても漢字って、ホンマに素晴らしいなあと思います。時代は、効率化を迫及する余り、ドンドン心を亡くす状況に向かっているのです。最近、社会問題化している人材派遣も、現実的には、元請け、下請け、孫請けという構造になっているようです。上の位置に立つ会社の名刺やユニフォームを着ながら仕事しているようです。こんな構造であれば、人間関係が生まれる訳がないのです。

こんな状況でも人は幸せを望むのです。この「幸せ」って何かを原点に戻って考える必要があると思うのです。人は一人では生きていけないのですから、誰かと関係をもつ必要があるのです。しかし、コミュニケーションはメールというような風潮になって来て、人間味というものが薄れているのです。バーチャルな世界だけではなく、実際の世界でのコミュニケーションが必要なのです。ところが、頭先行の会話では、心が通じ合う訳がないのです。

私は、「絆」という話をします。「糸」+「半」と書くように、細くて切れやすいのが「絆」と思うのです。直接コミュニケーションしていた時代の漢字ですら、そういう意味合いなのですから、現代のようなバーチャルな時代では、「絆」というものが死語化しないかと危惧するような状況なのです。辞書で

意味を調べると「人と人との断つことのできないつながり。離れがたい結びつき」とありますが、そういう意味では、ホンマに脆い状態だと思います。こんな脆い結びつきでは「安心」という面では非常に心もとないのです。こういう時に「不安」というものが心に入り込むと外に向かって発散する仕方がインターネットだったりして、自殺予告などのような騒動になってしまうのです。

人と人が本音で付き合い、体を通して付き合いという事が薄れているのです。久米さんのTV番組の予告に「ラブホに行ってセックスしないカップル」というような見出しがありましたが、なるほどと思うのも寂しい限りです。ある人が、人類が膨張した反動の結果だと極論していましたが、アラカン世代(還暦を越えた世代)としては、ちょっと信じられないです。「体」と「体」のぶつかり合いという究極の行為ができないのでは「絆」って生まれる訳がないように思います。

3. 「幸」=「辛」+「一」

確かに、世の中は豊かになって、特に欲しいというものが少なくなっているのも事実です。私は、「幸」=「辛」+「一」という話をするのですが、「本来の幸せは辛い状況下で得た一つの恵みではないでしょうか」という問いなのです。「辛」との対比で幸せを実感するのだと思うのです。ずっと、「幸」だったらマンネリで感覚が麻痺してしまうのです。日常は少し貧乏であっても、時たま、弁当を持って公園で遊ぶという「一」が家族の幸せを加速したのではないかと考えています。

こういう「一」が幸せを実感させるものだと思います。ちょっと話がズレますが、お金持ちって、意外に幸せではないかも知れないのです。ある方が言うておられたのですが、自分に近づいて来る人は財産目当てではないかと疑う気持ちが心の片隅にあるそうなのです。ホントに「寂しい」限りですね。人生は「金」だけではないのです。適度な貧乏が良いのかも知れません。

では、「信頼の絆」という点で、現代社会で如何にして回復させるかという点が課題になります。私は、「夢」や「希望」をもち、相手に話すというコミュニケーションが重要だと言っています。何気ない会話も重要ですが、相手との関係を深めるには荷が重いのです。やはり、自分の夢をハッキリさせて、相手に語る、すなわち、希望することを伝えるということも重要と考えているのです。自分の心の中にしまっけていても他人には分らないのです。腹を割って、自分の夢を語り、相手に希望することを伝えることによって「絆」というものに発展して行くと思うのです。

「夢」を実現しようとする共同作業で、お互いに「辛い」を分かち合い、しかも、尊重しあうことで「絆」が生まれると話しています。現場を預かるリーダーの方たちに、トップの方がまず「夢」を語り、「希望」を伝えること、すなわち、「方針管理」と「目標による管理」というマネジメント手法なのです。これは、トップとミドル、ミドルとロアーという相互に「信頼の絆」を築く伝統的なマネジメント手法であります。PDCAのサイクルを回して、それぞれの間がうまく機能しているかをチェックする事が基本であります。ぜひ、この手法を検討されるもの意義が大きいと思います。

【まとめ】

1. 「儲け」という字は「信」と「者」で出来ている。信頼関係こそが重要だ。
2. 「絆」は、希薄になっている
3. 「幸」=「辛」+「一」だが、「夢」をもち「希望」を伝えることで「一」を共有できる

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryo.html> でご覧になれます！】